

茨木市長選 候補者の横顔 (右から届け出順)

任期満了に伴う茨木市長選は、前市議で大阪維新の会いばら支部副支部長の木本保平氏(67)とみんな、維新の会向支部推薦▽前市議で新社会党府本部委員長の山下慶喜氏(59)と

社民推薦▽前市議の桂睦子氏(43)▽医師の吉野宏一氏(44)の無所属新人4氏による激戦となった。8日の投票日に向けて激しい舌戦を繰り広げる4候補の横顔を紹介する。



吉野 宏一氏 (44) 無新



山下 慶喜氏 (59) 無新



桂 睦子氏 (43) 無新



吉野 宏一氏 (44) 無新

保守的な職員にハッパ

関西大の柔道部で副主将を務め、六段の腕前。広告代理店社員などを経て、26歳で茨木市議に初当選。市議として11期40年、議長経験3回のキャリアを誇る。

入や保育所の民営化を進め、生活保護行政の見直しもしたい」と訴える。28歳で妻と死別。再婚してからは小学生の孫娘を溺愛。中という。「孫には『ジジ』と呼ばれるのが嫌で、『ボス』と呼ばせてほしい」と相好を崩す。ゴルフは、20代はシングルプレーヤー。50歳を超えてからスキューバダイビングもはじめた。「前例がないからこそやってみよう」が座右の銘。「保守的な市役所の職員にハッパをかけたい」

平等認識を大事にする

鹿児島生まれの九州男。大学時代は新聞配達をしながら通学した「苦学生」だという。昭和49年に社会党に入

の理由を説明する。「人間みなチヨボチヨボ趣味はマラソン。中学時代は駅伝の選手で、今も政治活動のピラ配りを兼ねて走り込む。「マラソンは目標設定ができ、努力した成果が出るのが好き。政治も同じことが言える」『悩める』大学生時代、

丁寧に説明責任果たす

大体大中退後、海外でのボランティア活動などを経て、28歳で茨木市議選に立候補、初当選した。市民派議員として行政改革や環境問題に取り組み、平成16年

表として出場した国体で見事優勝。ソウル五輪出場を目指して大学に進んだが、けがで夢は頓挫した。通算4期15年の市議経験を踏まえ、「自分が主張するだけでなく、異なる立場の人とも積極的に対話を積み重ねることにこだわってと分析する。

足元から政治を変える

平成22年まで茨木市内で整形外科診療所を経営していた。急病患者の多くが市外の病院に救急搬送されているという現状を嘆き、「医師として、また医療機

立候補したが落選。それ以後、政治の勉強を「からやち直し」、「足元から政治を変えていこう」との思いにいたったという。「七転び八起き」がモットー。「いつも失敗ばかりしているが、倒れて起き上がるたびに強くなる」とときわやかに笑う。